

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Universal school CRECIO Jr. 住道校		
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	中学生や高校生のうちから、自立に向けた課題に取り組むことができる。 また、中高生だからその課題にも取り組んでいる。	どうしたら一人でできるのかを考え、実技として取り入れている。職員の学生の頃や1人暮らしの経験をもとに、授業を作成している。	何度も繰り返し取り組んでいる子どもたちが飽きないように内容を変更していく。クラスを分けるなど、子ども一人一人にあった内容に取り組めるよう工夫する。
2	SNSやホームページなどで、普段の活動やイベントの様子を見ることができる。 また、保護者の方に来ていただくイベントも年に数回実施している。	活動の様子をわかりやすくするために、写真だけではなく動画ものせるようにしている。 保護者の方が参加可能なイベントについては別紙で案内を配布している。	授業やイベントの様子だけでなく、避難訓練の様子などもあげていく。保護者の方に来ていただくイベントだけでなく交流の機会を設ける。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	授業やイベントの様子は、SNSで発信しているが避難訓練の様子などの発信が少なく緊急時どう対応するのか保護者の方に伝わっていない。	毎月配布している予定表に、授業の予定は記載しているが訓練については大まかにしか記載していない。 また、SNS等での発信も少ない。	事業所内での訓練だけでなく、イベントの一環として体験できる施設に行く機会を増やす。 訓練の様子も、頻繁に発信していく。
2	自主通学の子が多いため、学校や保護者の方と情報共有する場が少ない。	送迎が少ないため、学校や自宅に行く機会が少ない。 そのため、先生や保護者の方に会う回数が減っている。	学校訪問をするなど、先生から情報を得られるようにする。 保護者の方へは、こちらから積極的に連絡をとり面談以外でも情報共有できるようにする。
3			

## 公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	Universal school CRECIO Jr. 住道校
------	---------------------------------

公表日 2026年3月31日

利用児童数 32名

回収数 14名

	令和8年1月26日	はい	どちらとも いえない	令和8年2 月13日	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	13	1				個別の対応もできるようなスペースを確保する。また、人数や活動内容によって使用する場所や教室の数を工夫する。
	2	14					
	3	12	2				活動の様子を見てもらう機会を設ける。どんな支援をしているのか、面談等で詳しく報告する。
	4	13			1		支援プログラムについての資料を配布する。また、実際どのような支援をしているのか話をする機会を設ける。
	5	12	2				今まで以上に、ご本人や保護者の方からのニーズや課題を聞き取り、計画の作成にあたる。
	6	14					
	7	13	1				面談時に、計画の説明を丁寧に行う。また、普段の支援の様子を見てもらう機会や報告する場を設ける。
	8	14					
ご家族への 対応 について	9	12	1		1		保護者の方に合わせて、連絡を行う。要望などに対しては、対応方法を検討し決まり次第、すぐ報告を行う。
	10	14					
	11	12	1		1		面談以外にも、活動の様子など保護者の方へ報告を行う。その際、ご家庭や学校の様子なども聞きたいと思う。
	12	8	3		3	学校とデイ割と連絡がなされているのかわからないから。	必要に応じて、学校など訪問し情報共有する場をつくる。また、保護者の方にも報告を行う。
	13	13	1				面談だけではなく、保護者の方と話をする機会をつくる。その際に、どのように支援していくのか一緒に考える。
	14	11			3		家族参加型のイベントや交流する機会を年間計画で決め、取り入れていく。
	15	14					
	16	13				1	個人情報取り扱いについて必要に応じて説明の場を設ける。
非常時 等の 対応	17	11	1		2		策定したマニュアルの周知・説明を行う。訓練の様子をおたよりやSNSで発信する。
	18	6	1		7		いつ行うのか、どんな内容なのかを予定表やSNS等で報告を行う。
	19	11	1		2		安全確保のための計画や支援方法について説明する場を設ける。もしくは資料を配布する。
	20	7	1		6		事故や怪我等が発生した場合、連絡はどのように行うのか説明を行う。
満足 度	21	11	3			将来についての方向性がまだわかっていないため	子どもの将来の目標に向けた支援ができるよう、保護者の方と情報共有の機会を設ける。
	22	10	4				学校終わりでも、楽しいと思えるような内容や工夫をする。
	23	14					
	24	14					
	25	14					

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		Universal school CRECIO Jr. 住道校					公表日	2026 年 3 月 31 日	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
適切な 環境と 支援の 提供	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されている。	5						
	2	清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。 また、こども達の活動に合わせた空間になっている。	5						
	3	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっている。	5						
	4	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている。	4	1			個人では限界があるので、全体で共有しながら理解を深め、支援の方法を検討する必要がある。		
	5	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っている。	5						
	6	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されている。	5						
	7	個別支援計画には、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	5						
	8	作成された個別支援計画書には丁寧に支援内容の説明が行われており、個別支援計画に沿った支援が行われている。	5						
	9	日々の活動内容や取り組みなど、固定化しないよう多様性をもった様々な経験ができるように工夫されている。	2	3			マンネリ化してしまわないよう、内容や取り組み方など工夫する必要がある。新しい内容を取り入れる必要がある。		
	10	こどもの状況に応じて、個別課題と集団活動を適宜組み合わせる支援が行われている。	5						
業務 改善	11	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を授業改善につなげているか。	3	2			授業後に振り返りの時間を設けることでよりよい授業づくりにつなげていく。		
	12	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されている。	3	2			必須の研修は店舗内で行っているが知識を増やすためにも外部の研修を調べ、参加する必要がある。		
	13	支援開始前には職員間で打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている。支援終了後には職員間で打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有している。	4	1		その日の流れなど共有する場として必ず朝礼を実施している。	支援終了後に、振り返りを行う時間を確保する。		
ご 家 族 へ の 対 応 に つ い て	14	ご家族との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされ、苦情や要望に対しては、体制を整備するとともに、迅速かつ適切に対応している。	5						
	15	日頃からこどもの姿や様子を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思う。	2	3			保護者面談以外でも、こちらから連絡を取り子どもたちの様子を伝えていく必要がある。		
	16	ご家族、学校、放デイなど、関係機関との連携が密に図られているように感じる。	3	2			密に連携を取ることができるようこちらからも積極的に連絡を行う。		
	17	定期的に、面談やこどもへの関わり方、支援に関するアドバイスや助言など、ご家族への支援が行われている。	5						
	18	家族参加イベントや茶話会の開催等により、保護者同士やきょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされている。	3	1	1	ご家族に子どもたちの様子を見てもらえるようなイベントを、年に数回開催している。	保護者さん同士で交流できる機会をつくり案内していく必要がある。		
	19	定期的におたよりやホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されている。	5			毎月おたよりを配布、週2回程SNSを更新している。			
	20	個人情報の取り扱いに十分に注意されている。	5						
非 常 時 等 の 対 応	21	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況について説明がされる。	5						
	22	業務継続計画（BCP）、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1			マニュアルの周知を行う。色々な場面を想定したうえで、訓練の実施を行う。		
	23	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1			共有するだけでなく、防止策についても意見を出し合い、実践する必要がある。		
満 足 度	24	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1			店舗内での研修だけでなく、外部研修に参加する機会をつくる。		
	25	こどもの将来を見据えた支援を追求できていると感じられる。	5						
	26	こどもは通所を楽しみにしている。	5						
	27	何かあれば気軽に相談できるスタッフが事業所にいる。	5						